

The Sinfonietta

ザ・シンフォニエッタ

第36回演奏会

36th Concert



指揮
竹内 健人

2024年10月14日(月祝)

熊本県立劇場コンサートホール

開場15:15 開演16:00

ゲストコンサートミストレス 船津 真美子



ピアノ
若林 顕

(C) Burkhard Scheibe



主催：ザ・シンフォニエッタ

後援：熊本県教育委員会 熊本市教育委員会 熊本日日新聞社 RKK TKU KKT KAB FM791 FMK

公式ホームページ <http://www.the-sinfonietta.org/>

※4歳未満のお子様のお入場はご遠慮ください(小さなお子様のご鑑賞は他のお客様のご迷惑にならないようご配慮ください)

Program

メンデルスゾーン／序曲「フィンガルの洞窟」 口短調 Op. 26

ベートーヴェン／交響曲第7番 イ長調 Op. 92

第1楽章 Poco sostenuto - Vivace
第2楽章 Allegretto
第3楽章 Presto, Assai meno presto
第4楽章 Allegro con brio

～ 休憩 ～

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第5番「皇帝」 変ホ長調 Op. 73

第1楽章 Allegro
第2楽章 Adagio un poco moto
第3楽章 Rondo: Allegro, ma non troppo

♪ オーケストラコンサート豆知識 ♪

○ 拍手はいつするの？

クラシック音楽の曲には「楽章」がある場合があります。「楽章」とは大きな1曲がいくつかに分かれているものです。演奏が始まり1つの楽章が、「…ジャン!♪」と終わると、「曲が終わったのかな?」と思われるかもしれませんが、しかし、曲はまだ終わりではありません。なので、拍手はちょっと待ちましょう。

今回のプログラムを見ると、交響曲第7番は4つの楽章、ピアノ協奏曲第5番『皇帝』は3つの楽章に分かれており、それぞれ違う雰囲気を持っています。「物語が第1話から第4話まである。」みたいなものです。物語の途中で「あ～、面白かった♪パチパチ…」とはならないですね。「次はどうなるんだろう?ワクワク…」という気持ちで、次の展開を待ちましょう。

そして、全曲演奏し終わって演奏が良かったと思ったら、惜しめない拍手を送りましょう!

ごあいさつ

本日はザ・シンフォニエッタ第36回演奏会にお越しいただきありがとうございます。

“Sinfonietta”とは「小さなオーケストラ」という意味です。1986年の創立以来、主に小編成の楽曲に取り組み、時間はかかっても良い演奏会となるようにじっくり練習することを心がけて参りました。これまで、すてきな楽曲、すばらしい音楽家、楽しいメンバーに恵まれて活動してきました。そして、演奏会にお越しただくお客様と豊かな時間を共有できることを何よりの喜びと感じています。これまで当団をご支援いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

ソリストの若林顕氏は、ベルリン交響楽団との共演を始め、世界各地で活躍する日本を代表するピアニストです。熊本には毎年コンサートに訪れており、素敵な演奏を届けてくださいます。当団とは3度目の共演となりますが、共演ができることは当団にとって大きな喜びです。

指揮者の竹内健人氏は、東京を拠点に全国で活動される若手指揮者です。北九州市出身ということもあり、九州とは深い繋がりがあります。当団とは初共演ですが、丁寧な指示で素敵な演奏に導いてくださり、本番のステージがとても楽しみになりました。

コンサートミストレスの船津真美子氏には第30回演奏会からコンミスを務めていただいております。当団にとっては欠かすことのできない存在です。今回も細やかで的確なアドバイスでオーケストラの牽引役を担っていただきました。トレーナーの蓮沼昇氏には、練習開始当初の手探りの状態から、詳細な解説と妥協のない指導で演奏を形にいただきました。御二方とも、大変心強い存在です。改めて厚く御礼申し上げます。

最後に、今回とりあげた3曲はいずれも17世紀初頭に作曲されたものです。当時のヨーロッパの雰囲気を思い起こしながら、名曲の魅力を最後までお楽しみいただければ幸いです。



指揮 **竹内 健人** *Kento Takeuchi*

福岡県北九州市出身。4歳からピアノ、10歳からサクソフォンを始める。洗足学園音楽大学音楽学部サクソフォン専攻を卒業後、東京藝術大学音楽学部指揮科を卒業。2016年、WMC-WBAS Intercontinental Conducting Courseのファイナリストに選ばれる。2018年、東京オペラ主催「魔笛」公演を指揮。2019年、4年に1度のゲーム音楽フェス「4starオーケストラ2019」で吹奏楽の指揮を担当。2021年、ブルーアイランド版「こうもり」指揮者。2022年、田嶋勉還暦記念演奏会で吹奏楽の指揮を担当、好評を博す。北九州グランフィルハーモニー管弦楽団、響ホール室内合奏団、筑豊フィルハーモニー管弦楽団、北九州交響楽団、北九州ジュニアオーケストラなど、福岡のプロ、アマチュア団体の客演も多く好評を博している。尾高忠明、ジョルト・ナジ、ラースロー・ティハニ、ダグラス・ボストックの各氏のマスタークラスを複数回にわたって受講。ピアノを上岡由美子、鳥羽瀬宗一郎、吉武優の各氏に、サクソフォンを江口紀子、池上政人、須川展也の各氏に、指揮を川本統脩、黒岩英臣、山下一史、高関健の各氏に師事。JR東日本交響楽団指揮者。慶應義塾大学ウインドアンサンブルOB吹奏楽団正指揮者。AZUMA吹奏楽団常任指揮者。グリーンハート吹奏楽団常任指揮者。新三友合唱団常任指揮者。東京サクソフォンオーケストラ常任指揮者。福岡サクソフォンオーケストラ指揮者。洗足ゲーム音楽ブラス常任指揮者。

ピアノ **若林 顕** *Akira Wakabayashi*

日本を代表するヴァルトゥオーゾ・ピアニスト。20歳で第37回ブゾーニ国際ピアノ・コンクール第2位、22歳でエリーザベト王妃国際コンクール第2位の快挙を果たし、一躍脚光を浴びた。東京藝術大学、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院、ベルリン芸術大学で研鑽を積む。第3回出光音楽賞、第10回モービル音楽賞奨励賞、第6回ホテルオークラ賞受賞。2002年にニューヨーク・カーネギーホール（ワイル・リサイタル・ホール）で鮮烈なりサイタル・デビューを果たした。N響をはじめとする国内の主要なオーケストラのほか、ベルリン響、サンクトペテルブルク響、ロシア・ナショナル管などの海外の名門オーケストラ、ロジェストヴェンスキー、アルブレヒト、ハーディングといった名指揮者、ブラッハー、イッサーリス、ルルー、バボラクなど内外の名手達と数多く共演。レコーディングでは多数のソロ・アルバムをリリース、全てレコード芸術・特選盤となり、極めて高い評価を受け続けている。また、2014年以降リリースされた鈴木理恵子とのデュオによるCDも常に高い評価を受けている。リサイタルでは2014年と2016年にサントリーホール、2020年11月には東京芸術劇場コンサートホールでソロ・リサイタルを行い、また2023年5月から同ホールでリサイタル・シリーズを開始、高く評され聴衆の支持を受けている。また、自身では3回目となる「ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ全曲シリーズ」を2017年に完結し、2018年より2022年まで「ショパン：ピアノ作品全曲シリーズ」（全15回）を行った。2023年から東京芸術劇場でリサイタル・シリーズを行っている。



©Burkhard Scheibe



ゲストコンサートミストレス **船津 真美子** *Mamiko Funatsu*

5歳よりドイツにてヴァイオリンを始める。相愛高校音楽科、相愛大学音楽学部卒業、研究生修了。第6回日本クラシック音楽コンクール全国大会入選。大阪交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団他、日本各地のオーケストラや、タイ・バンコク交響楽団にてオーケストラ客演奏者として演奏。バンコクや熊本にてリサイタルを開催。第4回熊本アートフェスティヴォ！聴衆賞受賞。平成音楽大学講師、必由館高校非常勤講師。

©Keisuke Imatomi

管弦楽 **ザ・シンフォニエッタ** *The Sinfonietta*

1986年に結成されたアマチュア・オーケストラ。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンなどの古典派の曲を中心としながら、ロマン派、近代の曲なども演奏している。アンサンブルを楽しむため、小編成の特性を活かした選曲を行い、時間をかけた丁寧な音楽作りを目指している。これまでに共演した主な音楽家は、指揮者では本名徹二、山下一史、藤崎凡、久保田悠太香、松元宏康、中井章徳などの各氏、ソリストでは安永徹 (Vn)、篠崎史紀 (Vn)、O. ボルヴィツキー (Vc)、若林顕 (Pf)、合志知子 (Pf)、吉田秀晃 (Pf)、青柳晋 (Pf)、鈴木理恵子 (Vn)、藤森亮一 (Vc)、龍野しずく (Vc)、田尻大喜 (Tp)、柴田恵奈 (Vn)、大村友樹 (Fl) などの各氏で、素晴らしい指導者・共演者に恵まれ充実した活動をしている。2011年に若林顕氏の弾き振りでピアノ協奏曲3曲を一夜で演奏。2012年には、山下一史氏指揮のもと、一般募集の合唱団、県内外の歌手の方々と共演し歌劇「カルメン」の演奏会形式に挑戦して好評を得た。2017年には、ソリストに日本を代表するヴァイオリニストの鈴木理恵子氏とNHK交響楽団首席チェリスト藤森亮一氏を招き、ブラームスのドッペルコンチェルトを共演。第30回の節目にふさわしい演奏会となった。2018年には指揮に松元宏康氏を招き、約200年前の演奏法など新しい試みに挑戦。昨年9月には九州交響楽団首席フルート奏者の大村友樹氏をソリストに迎え好評を得た。

曲目インタビュー ～ソリスト 若林顕さん、指揮者 竹内健人さんとの座談会～

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第5番 変ホ長調「皇帝」

—皇帝はどんなところが良い、難しい等色々あると思いますが、奏者としてどういった印象でしょうか？

若林さん：個人的には多く弾く機会を頂いている曲ですが、毎回新しい曲を弾くように見直しています。ベートーヴェンのコンチェルトは5曲とも素晴らしいですが、5番に関しては格別なものがあると感じています。調性もEs-durと確信に満ちた調で、ベートーヴェンのキャラクタが色濃く出ている良い曲です。大事なレパートリーの1つです。

—コンチェルト5番を書いたのは晩年ではないですが、その後に書かなかったのはなぜでしょうか？

若林さん：おそらく耳の関係もあるのかなと思います。ピアノ奏者として自分で弾く行為は華やかなキャラクタで、自分が弾くことを想定して書いています。耳の支障というのがそういう意欲やイメージで弾きにくくなってきたのかもしれない。

—ベートーヴェンはコンクールのファイナル等であまり選ばれない気がしますが、難しいんでしょうか？

若林さん：やはりベートーヴェンは音楽的に説得力を持って弾くのは難しいと思います。表面的な効果や自分の能力をプレゼンテーションするような曲ではなく、内容を問われる曲です。コンクール向きではない曲といわれますし、よほどベートーヴェン好きな人でないと選曲しないのもわかる気はします。

—ベートーヴェン以降の作曲家はピアノ協奏曲をまとめて書かなくなっているのはどうしてでしょうか？

若林さん：やはり大曲を書かなければという感じがあるのかもしれない。モーツァルトは少し小ぶり、ベートーヴェンになると大柄です。他の作曲家としては意識するでしょうね。別に続かないといけないうわけではないが、それを凌駕するものを書きたいとかがあると、なかなか書く気になれないのかもしれない。

—5番は、オーケストラがジャンと和音を弾いてピアノが出ますが、最初出るのは緊張されますでしょうか？

若林さん：チャイコフスキーとかは和音で始まりますので、そういった曲と比較すると、テクニカルなこととしては、ベートーヴェンの5番は割と緊張するコンチェルトです。

—オケが最初弾いて、暫くしてピアノが出るときは、オケの音等を感じながら入られるのでしょうか？

若林さん：もちろん録音で聞くものとは違いますし、その場で聞くとやはり自分が聞こえてなかった音が生々しくいろいろと聞こえてきたりするときは、とても楽しいですね。

ベートーヴェン 交響曲第7番 イ長調

—交響曲5・6番と7番以降では、作風が変わったともいわれているが、どう変わったのでしょうか？

竹内さん：各楽器の自由度が増えています。皇帝も踏まえると、特にティンパニの使い方等、ピアノソロとティンパニが同時に鳴り、ティンパニが音楽を支配することは、当時あまり考えられなかったんですね。それが、後期のロマン派に繋がり、それまで形作っていたものが徐々に枠から外れていったのが、7・8・9番・ロマン派の初めになったということですね。ベートーヴェンは、かなり独創性にあふれていて、これがいろいろな作曲家に感銘を与え、次世代の作曲家が繋いでいくというのはすごいことだと思いますね。基本的にベートーヴェンがいなかったら、ロマン派の時代はもっとずれていたんじゃないかと思いますが、この枠組みから外れ、しかも自然にやってしまうというところが7番の良いところではないかと思います。

—7番を作る前に管楽器のみの曲も作曲しており、ベートーヴェンは管楽器の研究もされたんでしょうか？

竹内さん：ベートーヴェンも管楽器に対して興味を持っていたというのは間違いではないでしょうね。弦主体であったものが、例えばトロンボーンを使ったり、打楽器をソリストとして使ったりとか、管楽器をモチーフとして出てきて、例えばトランペットやホルン等、これまでリズム楽器とされていたものが、メロディー等の違う役割を担っていくようになったのはベートーヴェンの影響ではないかと思います。

—5・6番でピッコロやトロンボーンを入れて拡大傾向になった後、2管編成に戻したのはなぜでしょうか？

竹内さん：ベートーヴェンは自分の力を挑戦する作曲家だと思っています。例えば、交響曲3番の4楽章は、わざわざプロメテウスの創造物のモチーフを持ってきていて、これだけ簡単な和音の動き・メロディーで、色々なバリエーションとして書けるんだぞという、自分への挑戦もあったのではないかと。そういったところで、5、6番で楽器を増やした一方で、2管編成でどこまでゴージャスな響きを書けるんだろうと、自分への挑戦があったのではないかなと思います。

— 2楽章は、葬送行進曲等と昔から色々な解釈がありますね。どういった感じと想われてますでしょうか？

竹内さん：まず、7番全体を通して、かなりポジティブな曲だと思っています。なので、葬送行進曲のモチーフやそういう音型が使われていますが、ベートーヴェンは、そこに和音の変化・メロディーの書き方・その後のコーラルのハーモニー等、そこにすごく芸術性があり、一味違うんですね。重いし暗い曲かもしれないけれども、その中で優しく明るいハーモニーがたくさんあると思いますので、そういうところをいかに歌わせてポジティブにもっていけるかというのが挑戦してみたいことだと思います。

メンデルスゾーン 序曲「フィンガルの洞窟」

—メンデルスゾーンも、管楽器に対しての興味があったのではないかなと思いますが、いかがでしょうか？

竹内さん：メンデルスゾーンは私の中では弦楽器の人なんですよね。でも、先ほどのベートーヴェンの話とは変わってくるかもしれませんが、吹奏楽のための曲を書いたり、弦楽器にすごく興味があったからこそ、管楽器の方にも挑戦してみようと思ったのではないかと思います。

—メンデルスゾーン自身はユダヤ人と意識していて、同じユダヤ人であるマーラーとは音の作り方が違うのはどうしてでしょうか？

竹内さん：ユダヤ人だからこそ、ユダヤ人の音楽というわけではないと思います。1つは、当時全然演奏されてなかったバッハという作曲家にメンデルスゾーンがすごく陶醉して、彼の曲を世に送り出したということが彼の音楽の基礎になったのではないかと思います。バッハのカンタータを自分の土台にしていると思いますし、彼の和声を考えてみると、非常にシンプルで、同じドイツの作曲家のマーラーやベルリオーズとは全然違いますね。

—フィンガルの洞窟に行ったことはありませんが、意外と穏やか海かなと思いましたがいかがでしょうか？

竹内さん：メンデルスゾーンは、色々な表情をこの曲に詰めこんだのではないかなと思います。例えば風の感じや、フォルテッシモのところは、強い衝撃を受けますし、減七のすごくショッキングな和音等、彼にしてみると、割と強い表現だったのではないかなと思います。もしかしたら、我々が現代で色々な音楽を知っているからこそ、少し穏やかに感じるかもしれません。当時の彼にしてみれば、海がこんなに強くなる、こんなに自然の畏怖の念を感じられるものなのか等、ショッキングなことだったのではないかなと思います。私の感じ方としては、穏やかな曲でもあるし、同時に怖い、激しい曲のイメージがあります。

—聴きに来てくださった皆様に何かこういうところを感じて欲しい等ありますでしょうか？

竹内さん：クラシックってアカデミックなイメージが強いんですよ。弾く側は、例えば、古典派・ロマン派がどうか、これが属七の和音、主和音等の知識は、必要だと思います。けれども、聴く側は、アカデミックである必要はないと思っています。私自身も、友人をクラシックの演奏会に誘った時に、正装していかないといけないの？と聞かれたり、クラシックの知識がないから行くのが申し訳ないと断られたことがあり、私にとってすごく衝撃的でした。わからなくても、好きになろうとしなくても良いですので、リラックスして、時には緊張して一緒に空気を過ごして、そこで何かを感じてくれれば、私としてはとても幸せです。私も歌舞伎にいたりして、緊張する気持ちもわかります。ただ、来てみるとTシャツやジーンズ等のお客さんもいて、意外とラフな世界ですね。先程、アカデミックな話もたくさんしましたが、聴く方としては、ここ良いね、ここ面白いね、なんか眠たくなってきた等どんな感想でもいいんですよ。好きでも嫌いでも演奏会が終わった後に、ちょっと興味を持って、例えばメンデルスゾーンってネットで検索してくださるだけで、この演奏会をやった意義があると思います。

Members

ゲストコンサートミストリス

船津真美子※

1stヴァイオリン

伊藤大輔

大谷晃市朗

岡田江身子

岡本侑子

菅原あいれ

日夏美紀

栗巢野美香※

藤枝理央※

2ndヴァイオリン

小川雅之

高橋弘行

月田理代

富奥史子

星乃三友紀

野原万友美

河本直樹※

田中 唱※

ヴィオラ

有水結友実

和泉希代子

小坂ゆかり

西村郁人

毎床一寿

木村宣子※

佐藤寛子※

チェロ

齊藤正孝

坪井敬子

平塚ゆり

馬原ひろみ

森山誠一

井上 忍※

コントラバス

岡田尚子

歳田和彦

中ノ森啓太※

フルート

大林淳子

山下隆久

オーボエ

橘 徹

永島理恵

クラリネット

福島由貴

府高明子

ファゴット

柴田義浩

永野千恵子

ホルン

ケープス友美

荒木久美子※

中嶋和博※

トランペット

殿崎菜穂子※

瀧松未波※

府高大祐※

ティンパニ

鈞谷智美

トレーナー

蓮沼 昇

※は賛助依頼（敬称略）

お知らせとお願い

♪ 団員募集のお知らせ

ザ・シンフォニエッタでは、団員を募集しています。

以下の連絡先よりお問い合わせください。

ホームページ <http://www.the-sinfonietta.org/>

メールアドレス the.sinfonietta.orchestra@gmail.com

♪ 主催者からのお願い

- ・ホール内での喫煙、飲食はかたく禁じられております。
- ・携帯電話、時計のアラーム等は音が出ないように設定ください。
- ・親子室がありますので適宜ご利用ください。
- ・演奏中は、ホールの入退場、座席の移動をお控えください。

本日はご来場いただきありがとうございました。今後の演奏会の参考とさせていただきますので、アンケートにご記入いただきますようお願いいたします

♪ 次回演奏会

開催日：2025年6月15日（日）

ソリスト：ヴァイオリン 篠崎 史紀 氏